随筆

教材のねらい

1 選定の理由

「徒然草」は、三大随筆の一つと言われ、高い評価を受けている。古文のおもしろさに触れるために、バラエティーに富んだ内容の作品から「亀山殿の御池に」「大事を思ひ立たん人は」「奥山に猫またといふものありて」「花は盛りに」の四つの多様な章段を読む。さらに、参考として随筆の本質を記した序段にも目を配ることができるようになっている。作者の考え方や感じ方を通して、自らの生き方を問い直すきっかけともしたい。

「単元の言語活動２　筆者の主張を読み取る」は、「亀山殿の御池に」「大事を思ひ立たん人は」において、作者の主張がどこに書かれているかを読み取らせ、論理的な文章の構成を学ばせることをねらいとしている。

2 指導のねらい

(1) 作者の描く様々な人間の姿から、人間の本質を読み取り、自らの生き方を振り返るきっかけとさせる。
(2) 作者の主張がどのように展開されているのかを捉え、論理的な文章の構成を学ばせる。
(3) 随筆の本質とは何かを学んだうえで、作者の考え方や感じ方と自らの考え方、感じ方を比較しながら、ものの見方を深めさせる。

3 単元の目標

目標について、別表「単元の目標一覧」をご確認ください。

4 評価規準

学習指導要領との対応等	評価規準例	〔知識・技能〕						思考・判断・表現力等〕	
		(1)ア	(1)ウ	(1)エ	(2)イ	(2)ウ	(2)エ	B(1)ア	B(1)イ
		言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや、古典特有の表現などについて理解している。	時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。	「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。
	亀山殿の御池に	○	○	○	○	○	○	○	○
	大事を思ひ立たん人は	○	○	○	○	○	○	○	○
	奥山に猫またといふものありて	○	○	○	○	○	○	○	○
	花は盛りに	○	○	○	○	○	○	○	○
	つれづれなるままに	○	○	○	○	○	○	○	○
	古文を読むために４	○	○	○		○	○	○	
	古文の窓１				○			○	
	単元の言語活動２	○	○	○	○			○	

〔主体的に学習に取り組む態度〕	〔思考力・判断力	
	B (1) オ	B (1) ウ
「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。		○
「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。	○	○
「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。		○
「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。		○
進んで「徒然草」に表れた作者のものの見方、感じ方を捉え、文語助動詞の種類と用法を理解し、学習課題に沿って、作者の主張を読み取り、自分の身近にいる人から「その道を知れる者」を選んでその理由とともに発表しようとしている。	○	
進んで「徒然草」に表れた作者のものの見方、感じ方を捉え、文語助動詞の種類と用法を理解し、学習課題に沿って、作者の主張がもっとも表れている一文を読み取ろうとしている。		○
進んで「徒然草」に表れた作者のものの見方、感じ方を捉え、文語助動詞の種類と用法を理解し、学習課題に沿って、本文の描写を手がかりに作者の描く法師像について話し合おうとしている。		○
進んで「徒然草」に表れた作者のものの見方、感じ方を捉え、文語助動詞の種類と用法を理解し、学習課題に沿って、論の立て方の特徴についてまとめ、その立論のしかたについて話し合おうとしている。		○
進んで「徒然草」に表れた作者のものの見方、感じ方を捉え、今までの学習を生かして、作者の主張を読み取り、批評しようとしている。		○

■言語活動例との関連（【　】は関連する指導要領の言語活動例）

単元の言語活動２　作者の主張を読み取る【〔思・判・表〕B(2)イ】